

市長と話そう、みんなで考えよう まちづくりトーク

逗子は、 大丈夫？

大地震・津波にそなえて —
私たちは今、何をすべきか

災害に強い逗子をつくるために
行政の役割は？
地域でできることは？
そして、私にできることは？

防災グッズフェア 同時開催

5月22（日）午前10時～午後6時
市民交流センター1階 展示コーナーにて
防災グッズの展示・販売
古い消火器の回収も行います（有料）

5月22日（日） 午後1時～5時
逗子小学校 体育館 にて

※図書館の向かい側、市民交流センター1階からお入りください

来場者全員にZen 配付します！

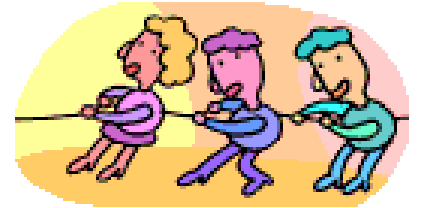
- ・定員300名（当日先着順）
- ・聴覚障がい者のための要約筆記、手話通訳があります。
- ・「託児」（先着5名）を希望する場合は、5月16日（月）までにお申し込みください。

主催・問合せ 逗子市 市民協働部 市民協働課
電話 046-873-1111（内線：7824）
E-mail siminkyoudou@city.zushi.kanagawa.jp



3月11日に東北・関東地方を襲った大地震 では、逗子市内でも約11時間にわたって停電が続き、市民生活に大きな混乱が生じました。その後、東北地方の被災地の状況が明らかになるにつれ、海に近く、場合によっては津波の危険も考えられる逗子では、多くの人が不安を感じています。大規模災害の発生に備えて何をすべきか、災害が発生したとき、どう行動すればよいのか、いま、市民と行政が知恵と力を出し合って考え、行動することが求められています。

今回の「まちづくりトーク」 では、「大地震・津波にそなえて—私たちは今、何をすべきか」というテーマで、災害対策に取り組む市民団体の方々や行政の各部署の担当者も交えて意見交換を行い、市民と行政の「協働」による、「災害に強いまちづくり」について考えます。



第1部 逗子の災害対策の現状を知る

(午後1時～)

3月11日、逗子では何が起きたのか。大地震や津波が逗子を襲ったら、どうなるのか。市は、どのような災害対策を講じているのか。地域の災害対策は？ 市民団体の活動は？ 逗子の災害対策の現状について、情報を整理し、共有します。

— 休憩（15分程度） —

第2部 災害に強いまちづくりを考える

(午後3時頃～)

第1部の内容を踏まえ、これからの災害対策のあり方について、参加者全員で意見交換を行います。行政は何をすべきか。地域でできることは何か。そして、自分は何をすればよいのか。子ども、高齢者、障がい者、長距離通勤者…。さまざまな立場の人が意見を出し合うことによって、「災害に強いまちづくり」のイメージを共有することを目指します。



写真：昨年度の「まちづくりトーク」から

会場案内図

逗子文化プラザ・市民交流センターの1階からお入りください。体育館は3階です。



「まちづくりトーク」って、なに？

市長と一緒に、逗子の「まちづくり」について考え語り合う、逗子市が主催する集まりです。昨年度は、「ゼロ・ウェイスト(ゴミの減量化)」「地域医療」「高齢者福祉」「学校支援地域本部」「文化振興基本計画」「地域力」などをテーマに計10回実施しました。

子どもから大人まで、逗子のまちづくりに関心を持つ人であれば、どなたでも参加することができます。

行政から市民に向けての一方的な説明会ではなく、そこに集まった人たちが、それぞれの立場から多様な意見を出し合うことで、豊かなまちづくりを進めていくことを目指しています。